

I 実践

1 本校の人権教育の目標

法の下での平等の原則に基づき、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育を推進するため、研修計画を位置づけ、教師自らの正しい認識を深め、自他の人権を大切にしたい望ましい人間関係を築こうとする生徒を育てる。

2 実践内容

(1) 生徒の学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける学習指導の推進

互いに学び合い、認め合う中で、確かな学力を身につけることができるように、授業の改善を行っている。全教科の授業の中で、1時間の中に小グループでの学び合いの時間を取り入れるようにしている。その中で自分の考えが認められたり、友達の考えに触れたりすることで、仲間と学ぶ楽しさを知ることができ、自己肯定感を高めると同時に、学ぶ意欲を高められるようにしている。また教師も「1時間の授業の中で5回以上ほめる」ことを共通実践として掲げ、生徒の良さを賞賛しながら、温かな雰囲気づくりに努めている。

(2) 人権メッセージや人権作文への応募

生徒全員が人権メッセージと人権作文の作成に取り組んだ。人権メッセージは、道徳の授業などを通して、思いやりや命の尊さについて考えたことを、自分の言葉で表現した。人権作文は、昨年度までは夏休みの選択課題であったが、今年度から必修課題にした。夏休み前に、これまでに発行されている人権作文集を読んだり、作文集を道徳の教材としたりすることで、人権感覚の育成を図った。また、文化祭で人権作文を発表する場を設け、友達の考えを知り、さらに考え方が広げられるようにした。(資料1)



【資料1 文化祭の発表】

(3) 総合的な学習の時間での取り組み

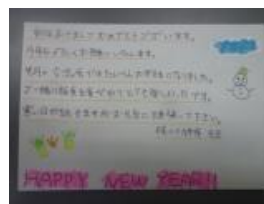
1学年では、「郷土『日立』」というテーマの中で、身近な地域の方とふれあい時間を設けている。地域のコミュニティ推進会ボランティアふれあい活動部との共催による「ふれあい交流会」には、主に地域の高齢者が参加し、卓球や郷土かるた、輪投げなどのレクリエーション、会食会を行っている。これらの活動を通して、高齢者を身近に感じるとともに、地域の一員としての役割について考える機会となっている。また、戦争体験を聞く場も設け、平和について改めて考える機会ともなっている。(資料2)



【資料2 ふれあい交流会の様子】

(4) 学級活動での取り組み

1年生は、交流会で関わりを深めた地域の方へ年賀状を送り、2年生と3年生は、老人ホームでお正月を迎えるお年寄りに年賀状を送った。面識のない方に対しても思いを寄せる活動を通して、思いやりの気持ちを育む活動を設けた。(資料3)



【資料3 年賀状】

(5) 幼児とのふれあい交流会

2年生は、家庭科の授業でフェルトで幼児のおもちゃを製作し、幼稚園、保育園を訪問し、幼児との交流会を行っている。幼児について理解を深め、幼児への心配りや言葉の伝え方など多くのことを学ぶ機会となっている。また、訪問後は、さらに幼児への思いやりの気持ちが育つように幼児への手紙を書いた。



(資料4・5)

【資料4 訪問の様子】 【資料5 幼児への手紙】

(6) 古紙回収運動

協力、協働の心を育てるとともに、労働の大切さ、資源の有効活用の大切さを考えること、地域への貢献やボランティアを通じての社会参加を目指すとともに、地域の人々との交流を深めることを目的とし、毎年、古紙回収を行っている。前年度に引き続き、今年度も古紙を回収し古紙回収業者に引き渡した収益金の一部を茨城新聞社を通して募金をした。(資料6)



【資料6 古紙回収の様子】

(7) 心と体を大切にするための取り組み

思春期講座として、1年生は「歯と口の健康集会」「喫煙防止教室」、2年生では「薬物乱用防止教室」、3年生では「性に関する学習会」を行い、自分にも目を向け、自身も大切にしようとする気持ちを育てている。

また、2年生では「立志式」を行っている。自分の成長を改めて見直すとともに、周囲への感謝の気持ちを持ち、これからよりよい成長するための機会となっている。

(8) 校長賞の授与

本校では、3つの目標「時間を守る、迷惑をかけない、他人の役に立つことをする」のもと、生徒と教師が同じ目標に向かって行動するように心がけている。特に、「人の役に立つ」という目標に向けた一人一人の頑張りを賞賛するために、「校長賞」を授与している。「熱心な清掃への取り組み」「友人を思いやる行動」「快いあいさつ」など、日常の中で、教師が生徒の良い点を見つけ、推薦している。1年間で全員が受賞できるようにし、自己肯定感の高まりにつなげている。(資料7)



【資料7 校長賞受賞の様子】

(9) ハイパーQUテスト、いじめに関するアンケート、面談・教育相談の実施

年度始めと、年度途中の11月にハイパーQUテストを実施して、学級経営に生かしている。いじめに関するアンケートも毎月実施し、生徒が安心して学校生活を送れているかを把握できるように努めている。その他には、二者面談を学期に1回行い、事前の生活アンケートをもとに、生徒の悩み等を把握するとともに、一人一人が自立した生活を送れるよう支援している。

3 成果

○「学校生活や授業に関するアンケート」では、「迷惑をかけないようにしている」で「とてもそう思う」「そう思う」が93.8%、「他の人の役に立つことをやろうとしている」は、「とてもそう思う」「そう思う」が93.6%であり、生徒たちが周りにいる人を大切にしようとする意識の高さが感じられた。

○毎日の生活の中で互いを認め、高め合う機会を多くつくることができた。友達が褒められている場面を見ることで、自分もそのように振る舞おうとするようになってきた。校長賞を受賞した生徒が、その行動が自然と行えるようになったり、受賞した友達を褒めたりと、日常の中によりよい行動をしようとする意識が根付いてきている。

II 今後の課題

○継続的に学校全体で生徒一人一人を認め、励ますことをしてきたが、「学校生活に関するアンケート」では、「自分にはよいところがあると思う」という質問で、「あまり思わない」「思わない」が25.8%であった。自己肯定感をさらに高めていくための実践が必要である。

○昨年度は生徒会が中心となって「いじめ0」に向けた取り組みを行ったが、1年ごとに違う取り組みを行っているため、生徒が中心となって行う継続的な人権教育活動が少ない。今後、生徒中心の活動が行えるように生徒会等に働きかけを行っていきたい。

III 人権コーナー設置の様子

人権コーナーには、月の道徳計画、道徳で使った資料、授業の感想、魔法の言葉を掲示している。魔法の言葉は、定期的に、自分の今を振り返り、支えとなるような言葉を掲示している。授業の感想では、主に道徳の授業で考えた思いやりや命の大切さなどの生徒の感想を掲示し、人権感覚の育成を図っている。(資料8)



【資料8 人権コーナー】